

## 浜岡町

### 地形概況

新野原・北原などのひろがる牧の原台地・南山丘陵・比木丘陵・佐倉丘陵などがある。新野川・朝比奈川の谷底低地は広く、池新田の干拓地はかつて閉塞された湖であった。海岸の浜岡砂丘は規模が大きく、人工斜砂丘の造成で飛砂を防止した歴史をもつ。

### 地質概況

牧の原台地は礫層がのり、古谷泥層が相良層群の泥岩と砂岩の互層の上に堆積している。西部は掛川層群の丘陵である。南山丘陵は高位段丘の小笠山礫層・佐倉丘陵は相良層群からなり砂層におおわれている。沿岸の砂丘は規模が大きく、砂層が広く分布する。

### 気象概況

年平均気温は推定 15.8℃と県内でも気温の高い地域で、特に冬に暖かく真冬日がほとんどない。推定年平均降水量は 2,200mm と県平均よりやや少なく、5月から9月にかけて約半分に達する。冬は日照時間が長く、県下でも西風の強い地域である。

### 災害事例 地震

- 1944年12月7日（昭和19年）東南海地震 M=7.9  
県中・西部に被害を生じた。当地でも池新田で全壊6戸、半壊12戸、高松で全壊1戸、半壊1戸、新野で全壊3戸、半壊14戸、朝比奈で半壊1戸、比木で全壊2戸、半壊11戸、佐倉で全壊6戸、半壊16戸などの被害があった。また池新田・比木・佐倉・朝比奈・新野などの各地で、地割れが生じ、噴砂噴水の現象があった。各地の震度は、宮内で6、浜岡・比木・門屋で5～6、玄保・西佐倉・行僧原・山ヶ谷・朝比奈・新野・新野南・新野原で5であった。
- 1854年12月23日（安政元年）安政東海地震 M=8.4  
全県下に被害があり、当地でも全潰は中尾で11戸、山田ヶ谷で10戸、木ヶ谷で18戸、黒田で1戸、篠ヶ谷で6戸、在ヶ谷で10戸、原組で寺4軒、上組で1寺9戸、比木で14戸などであった。また門屋・朝比奈・合戸・塩原でも半数程度が潰れた。各地の震度は木ヶ谷・門屋で7、中尾・山田ヶ谷・在ヶ谷・藪下ヶ谷で6～7、篠ヶ谷・原・上組・佐倉で6、黒田・長谷・朝比奈・合戸・塩原で5～6であった。
- 1498年9月20日（明応7年）明応地震 M=8.2～8.4  
大地震で、人々は倒され、地の裂けた所から水が噴き出たという。震度は小笠で6である。

### 災害事例 津波

- 1854年12月23日（安政元年）安政東海地震津波  
全県沿岸に被害を受けた。佐倉では6mの高さの津波に襲われた。

### 災害事例 台風

- 1962年7月28日（昭和37年）台風7号  
県中・西部で被害があった。当地では箴川・新野川・朝比奈川が氾濫し、土砂崩れ

を生じた。被害は死者4人、負傷者6人、全壊13戸、半壊32戸、床上浸水191戸、床下浸水934戸などであった。